

章 晴明(い せいめい)先生のプロフィール

1976年 順天堂大学医学部卒業

1988年まで 順天堂大学付属病院にて、内科学・
循環器内科学の研修・診療・研究に従事

1989年 セイメイ内科開設、セイメイ内科院長として現在に至る

日本内科学会認定総合内科専門医
日本循環器学会認定循環器専門医
日本東洋医学会漢方専門医
日本医師会認定産業医 でもある。



◆先生が初めて漢方と出会われたのはいつ頃ですか

病院の勤務医時代、連日の徹夜で疲労困憊していたとき、漢方メーカーのMRさんに
補中益気湯をすすめられました。

期待せずに飲んでみたのですが、疲れが嘘のようにとれ、元気が出ました。
以来、漢方に興味を覚え、勉強を始めました。

◆先生の御専門で漢方はどのような効果を発揮していますか

専門は循環器内科で、心臓病や高血圧を対象としておりますが、
この領域で漢方を使用することは多くありません。

単に血圧を下げるだけなら、西洋薬に副作用の少ない良いものがあります。
狭心症や心筋梗塞も西洋医学優先です。

しかし、「冷え」の治療は漢方(東洋医学)が圧倒的に優れています。
また、虚証に対する補益法として各種の補剤を使い分けるところなどは漢方の独壇場だと思います。

◆普段の治療で漢方薬と西洋薬との割合はどれくらいですか

50% - 50%

◆10年後の漢方医療はどうなっている(またはどうあってほしい)とお考えですか

全国の大学医学部で漢方に関する講座ができ、専門的な教育が行われることを期待します。



◆先生ご自身漢方を飲んで効果を実感なされたことがありますか

八味地黄丸を常用しています。おかげでこの10年間風邪を引くこともなく、持病の腰痛も悪化せず、快適に過ごしております。

◆これから漢方医を志す方に一言お願いします

何でもよいから、まずは漢方を使ってみる。
手応えのあった処方を持病的に使ってみて、自家薬籠中のものとする。

はじめから合方しないで、まずは単独の薬方で試してみることを、漢方を習いたての頃に講演会で「大家」といわれる先生方が強調されていました。

まさにそのとおりだと、今にして思います。

もうひとつ、古典を読むこと。解説本も数多くありますが一人で読みこなすのは難しいので、読書サークルのようなものに入るとよいとおもいます。

◆漢方に関心のある一般の方に一言お願いします

漢方薬も西洋薬も一長一短。病気の種類、体質などにあわせて使い分けるべきだと思います。せつかく両者を使うことができるのですから、どちらかに固執しないほうが良いです。

◆その他のご意見をお聞かせください

漢方薬を健康保険の適応から外さないでいただきたい。



注意：先生へのインタビューは、当会が2006年3月に行った内容です。